

文部省特選

(少年向, 青年向, 成人向)

縄文土器

カラー24分 販売価格 ¥ 170,000

企画 東京国立博物館
製作 桜映画社

□すいせんのことば

文化財保護審議会専門委員 八幡一郎

この映画は何千年か前の日本の風土の中で、人々が原始生活を営みながら、日本の土壌で手づから造った必須の器物、縄文土器の実態を概観させる。それらの形、作り、装飾が時期によって特色を示すことが、高度な撮影技術により、よく描き出されている。殊に特色あるのは製作の工程を実験的に示す点である。

そのような工程から導かれた形容、胎土の精粗、色調、肌の仕上げ、装飾の繁簡、文様のレリーフの様態などが、完成された原品多数から十分に読みとれる。従来工芸的な造形美の面が強調された縄文土器は、この映画によって、作った人々の生活の中の技法のみならず、情感が端的に表現されている点が推賞される。

教育映画祭優秀作品賞

東京大学名誉教授 井上光貞

縄文土器は、ただ単に日本列島の住民が最初につくり出した土器であるだけでなく、出現年代の古さや、文様の多様性、装飾の豊かさなどの点からも、世界における原始時代のうちでユニークな存在といえよう。

この映画は、縄文土器の変遷や、その製作技術を物語るとともに、土器を通して推理した縄文時代人の生活や信仰の姿をも、巧みに復元しており、考古学に門外漢の私にも大変興味深いものだった。

しかも、登場する縄文土器はいずれも美しく迫力のある映像として扱われているので、この映画を観る人は深い感銘を受けることだろう。

製作

株式会社

桜映画社

東京都渋谷区代々木1-57-1 代々木センタービル
〒151 TEL 03(3320)6311 FAX 03(3320)7666

配給

□解説

私達の祖先は、世界の先史時代にも類のない粘土による豊かな造形をおこなった。縄文土器である。素朴な味の中から、時にはエネルギーな流動感をみながら、また時には工芸品のように洗練された美しさに達している。それらの土器の形や文様、装飾から、私達はそれを作った人々のくらしや、そこを伺い知ることができる。



□内容

長い氷河の時代が終り、日本列島が雪融けの季節を迎えた頃、私達の祖先も新しい文化を生み出した。縄目文様を付けた土器に代表される縄文文化である。

〔発掘〕 映画は、まず土器の破片が土の中から現れてくる有様を生き生きと捉える。

〔修復〕 その破片を修復する作業は、はかどるにつれ、その土器の姿とともに、それを使った祖先のくらし、作った人の心まで推測されて興味深い。

〔編年〕 縄文時代は、以下に示すように五つの時期に分けられる。この一万年を超える私達の祖先の狩猟・採集生活にも、人の一生にも似た隆盛と衰退の時期があった。



〔早期〕 はじめての土器は、丸底で岩陰や洞窟から発見されることが多い。そのうちに底のとがった土器が多くなるのは、まだ移動生活であったことを物語るものだろうか。いや、この方が煮炊きには便利だったという説、それらを再現によってたしかめてみた。

〔前期〕 気候も温暖になり、住居も定着したためか、土器も大型化し、のびやかな形を示す。縄目による文様も百種を超



この映画は、代表的な土器を編年のみで縄文時代全体を、大きな文化の流れとして、はじめて捉えようとした映画である。全国に散在するすぐれた縄文土器の紹介とともに、縄文土器のつくられ方、文様の付け方を再現したり、土器を通じてみた縄文人のくらしやその精神世界にまで推理をすすめてみた。

え、その表現の花が開く。その中から特徴のあるものをいくつか土器面に付けてみる。

〔中期〕 縄文文化の最盛期。代表的な火焰、水煙土器が生まれるのは、この時期で、奔放でエネルギーに満ちた表現が見られるようになる。当時の住居を復元し、狩猟と採集の生活を想像する。土俗的な信仰を思わせる蛇や獣、人面が好んで土器の装飾に使われる。貝塚が発達したのもこの時期で、交易も、かなり広範囲に行なわれていたようだ。内陸の住居跡から、海岸の貝塚から発見される土器が発見されたりするのもそのよい例である。



〔後期〕 土器の形には、中期のような力強さは見られなくなるが、一層洗練され、土器づくりの技術も高度になってくる。ここでは全国的に流行した「磨り消し縄文」の土器づくりを再現してみる。儀式に供えたものか呪術的な雰囲気土器や土偶も数多くなり、自然をおそれていた彼らの精神文化は、ますます複雑なものになってくるのがわかる。

〔晩期〕 晩期の縄文文化は、サケマスの豊かな東北地方に最後の花を開かせている。漆で赤い色を付けたり、形も工芸品を思わせるような精緻なものになる。同じ頃、既に西日本には、稲作と金属器を伴う大陸の文化が押し寄せていた。九州の晩期の縄文土器に残るモミの痕は、この日本列島で縄文文化をもった人々が弥生文化を受け入れていったことを物語っている。



□この作品に登場する主な出土品

〔早期〕

- ①丸底鉢形土器(長野・石小屋) — 写真①
- ②丸底鉢形土器(東京・なすな原)
- ③尖底鉢形土器(神奈川・夏島貝塚)
- ④尖底鉢形土器(新潟・卯ノ木)
- ⑤尖底鉢形土器(長野・丸山)

〔前期〕

- ⑥円筒土器(青森・是川)
- ⑦片口土器(埼玉・上福岡貝塚) — 写真②
- ⑧壘形土器(横浜・下田)
- ⑨浅鉢形土器(千葉・飯山満東)
- ⑩壘形土器(千葉・幸田貝塚)

〔中期〕

- ⑪有孔鐏付土器(長野・井戸尻)
- ⑫有孔鐏付土器(長野・尖石)
- ⑬人形蛇身装飾付壘形土器(神奈川・林王子)
- ⑭土偶(山梨・上黒駒)
- ⑮蛇身装飾付鉢形土器(長野・尖石)
- ⑯壘形土器(東京・多喜窪)
- ⑰人面把手付壘形土器(東京・中原)
- ⑱壘形土器(東京・菅生)
- ⑲壘形土器(千葉・姥山貝塚)
- ⑳渦巻把手付鉢形土器(長野・井戸尻) — 写真③
- ㉑鉢形土器(長野・宮ノ前)
- ㉒壘形(火焰形)土器(新潟・馬高) — 写真表
- ㉓壘形土器(長野・長峰)

〔後期〕

- ㉔鉢形土器(千葉・堀之内貝塚) — 写真④
- ㉕注口土器(青森・四和)
- ㉖後期土器セット
- ㉗壘形土器(秋田・鷹巣町七日市)
- ㉘片口土器(秋田・十和田大湯)
- ㉙貝輪を入れた蓋付土器(千葉・古作貝塚)
- ㉚土偶(群馬・郷原)
- ㉛巻貝形土製品(新潟・上山)
- ㉜土面(青森・亀ヶ岡)
- ㉝土面(秋田・鷹巣町麻生)
- ㉞異形台付土器(東京・鶴川他)

〔晩期〕

- ㉟香炉形土器(青森・是川)
- ㊱台付土器(青森・是川)
- ㊲壘形土器(青森・川原) — 写真⑤
- ㊳壘形土器(青森・松原)
- ㊴壘形土器(青森・是川)
- ㊵赤漆塗注口土器(青森・是川)

□製作スタッフ

製作……………村山英治
脚本……………米内義人
花崎 哲
演出……………米内義人
撮影……………福井久彦
照明……………監物邦雄
音楽……………染谷欣吾
解説……………小林恭治